



西原町【沖縄県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成28年2月 ■ 人口：34,948人 ■ 面積：16km²
■ 担当課：西原町教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



本構想は「西原町まちづくり基本条例」の理念をふまえ、町内の文化遺産およびその周辺環境を総合的に保存・活用するための方針などを定めている。さらに、町における各関連計画との整合・連携を図ることによって、文化遺産の保存および文化遺産をいかしたまちづくりのマスタープランと位置づける。

5 歴史文化を表す つのキーワード

金丸ゆかりの地、激戦地西原、首里城と歴史の道、
豊かな祭祀芸能、土より成るグスク

課題

- ・「文化遺産の保存のあり方」
- ・「文化遺産のまちづくりへの活用」
- ・「文化遺産を守り伝えるひとづくり」

保存活用方針

- ・「文化遺産を知る・体験する」
- ・「文化遺産を守る・高める」
- ・「文化遺産をいかす・広める」

保存活用のための取り組み

文化遺産カルテの作成・更新

構想策定の過程において、町内に点在する文化遺産約1,200件のカルテを作成した。対象となる文化遺産は、現存するもの、消滅したものの、新たに形成されるものとなっており、構想策定後も継続してカルテの更新等を行っている。



文化遺産の記録保存

西原町において優先して保存すべき文化遺産10件の3D測量を行い、現状記録の保存を行った。あわせて、町民が目で見えてわかりやすく文化遺産を理解してもらえるよう、3D測量にもとづく映像資料を作成した。



「保存活用計画」の策定

構想策定において設定された「関連文化遺産群」「保存活用区域」のうち、優先されると考える2つの「保存活用区域」の個別計画を策定した。そうすることにより、保存活用のための具体的な取り組みに進むことが可能となる。

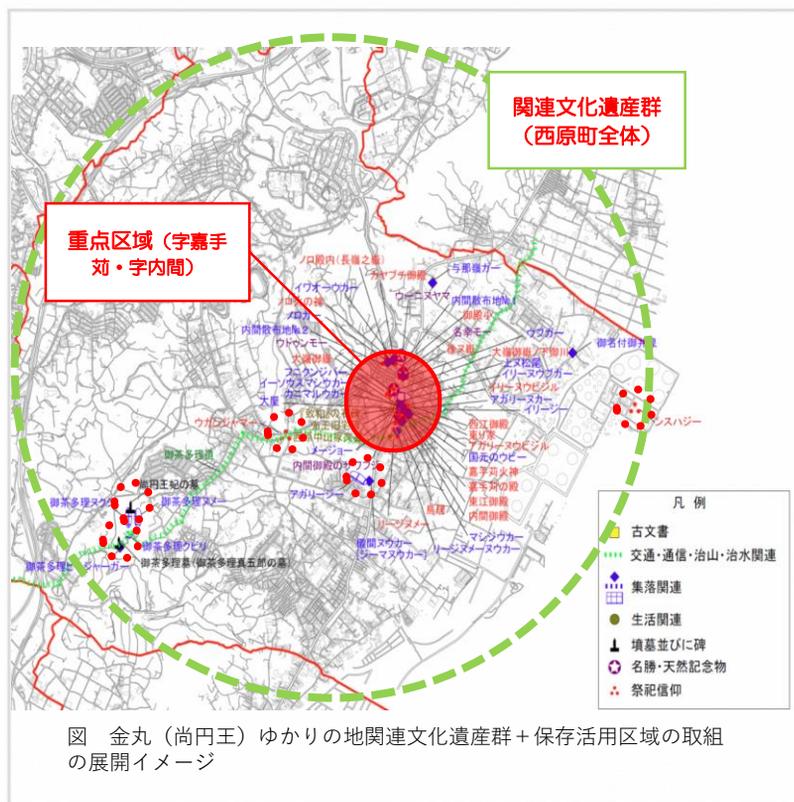


ミニシンポジウムの開催

構想策定にともない、各地域ごとに懇談会を開催し、住民からの意見を募った。その中で、積極的な地域においてミニシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、地域の文化遺産や祭祀芸能を継承するための取り組みについて意見を交わした。



関連文化財群



西原町では、町の歴史・文化的な資源を「文化遺産」と捉え、構想における関連文化財群についても、関連文化遺産群という名称を使用している。(a)把握しやすい(b)利点をいかせる(c)町内全域をカバー(d)今後も見直し・追加を行う、という考え方のもと、町の歴史文化の特徴である「金丸ゆかりの地」「激戦地西原」「首里城と歴史の道」「豊かな祭祀芸能」「土より成るグスク」等のキーワードを設定している。

ストーリー

- ① 金丸（尚円王）ゆかりの地関連文化遺産群＋保存活用区域
- ② 戦争の記憶関連文化遺産群
- ③ 稲作とまつり関連文化遺産群
- ④ 製糖と軌道関連文化遺産群
- ⑤ グスクの多様性関連文化遺産群

策定後の成果（見込まれる効果）

① 町民への周知啓発

構想策定で収集した文化遺産の情報をパンフレットやHP等で発信し、町民への周知啓発を図ることで、町民の学びに寄与し、地域コミュニティの絆や、誇りの熟成に役立てる。また、地域散策等を行うことで、地域への関心が高まり、文化遺産の整備や個別計画の策定等につなげる。



② 個別計画策定の推進

構想策定で設定された「関連文化遺産群」「保存活用区域」それぞれの個別計画を策定することによって、より具体的な保存活用のための取り組みが推進される。個別計画の策定には、多くの地域住民の意見を反映していく。



③ 文化遺産を周遊できるサイン整備

幸地グスク周辺保存活用区域は、構想策定と同時に保存活用計画を策定し、翌年にサイン整備計画を策定した。今後は、幸地グスク内を通る首里城と中城城跡とを結ぶ歴史の道をテーマとした広域的な周遊ルートと、幸地グスクと周辺集落や文化遺産を巡る狭域的なルートを楽しむサイン整備等を進める。

